

## デーリー東北

2023年(令和5年)12月20日(水曜日) (1)



## 橋のメンテ体験施設整備

## 大工大

社会生活や経済活動を支える大型インフラの橋が全国的に老朽化し、適切なメンテナンスによる長寿命化の重要性が増している。維持管理業務に従事する人材の育成が求め

## 長寿命化研究、人材育成へ

## 技術者の学び直しにも

見込む。インフラに関わる地元企業は人材確保や技術の深化に期待する。

国内では高度経済成長期からバブル期にかけて多くの橋が建設され、年月の経過とともに老朽化が進行。近年は激甚化する災害にも耐え得るよう、メンテナンスでいかに長寿命化させるかが重要にな

られる中、八戸工業大は11月、構内に実在する橋を再現した「橋梁メンテナンステクスナ」を完成させた。実物を見ながら基本的な構造や部材、劣化状況などについて研究することが可能。大学の講義だけでなく、地域の技術者を対象とした学び直しでの活用も

「橋梁メンテナンステクスナ」を完成させた。実物を見ながら基本的な構造や部材、劣化状況などについて研究することが可能。大学の講義だけでなく、地域の技術者を対象とした学び直しでの活用も

「橋梁メンテナンステクスナ」を完成させた。実物を見ながら基本的な構造や部材、劣化状況などについて研究することが可能。大学の講義だけでなく、地域の技術者を対象とした学び直しでの活用も

本年度は効果的な人材育成につなげるため、地元企業からの寄付金などを活用し、橋梁メンテナンステクスナを整備した。

施設の大きさは全長16.5m、幅3.3m、高さ2.5m程度。実在する橋と同様の工法で造られており、見学が難しい橋の裏側や排水の仕組みを間近で見られる。昭和期から使われてきた複数の仕様の鉄筋を採用しているのも特徴

で、部材の変遷やそれぞれに対応した補修方法、経年劣化具合なども研究できる。

担当の阿波稔教授は「これまででは映像でしか知ることができなかった部分を、実物を教材にして学ぶことができると施設の有用性を強調する。来年度から土木や建設などの講義で活用するという。地域の技術者が学び直りカレント教育のほか、市民がインフラの必要性について考えを深める学習素材としても使用する予定。メンテナンスに関わる新技術の実証実験や研究分野での利用も進める方針だ。

地元企業側も施設の効果に期待を寄せる。橋のメンテナンス業務を担う穂積建設工業(八戸市)の石亀晶丈社長は「複数の橋のメンテナンスを体験できる機会は少なく、時代ごとの変化を学ぶことができるのは貴重な」と歓迎。「大」と企業が連携しながら、業界全体のレベルアップにつながれば」と語った。

「複数の橋のメンテナンスを体験できる機会は少なく、時代ごとの変化を学ぶことができるのは貴重な」と歓迎。「大」と企業が連携しながら、業界全体のレベルアップにつながれば」と語った。

八戸工業大が整備した「橋梁メンテナンステクスナ」11日、八戸市

(藤村大地)